

酪農乳業産業基盤強化特別対策事業の実施状況と今後の推進について

平成 30 年 12 月 25 日

一般社団法人 Jミルク

わが国酪農乳業の喫緊の課題である酪農生産基盤強化に資するため、平成 29 年度より開始した標記事業の実施状況及び今後の実施の見通しについては、以下のとおりである。

I. 酪農生産基盤強化事業

1. 乳用牛資源緊急確保事業（乳用牛輸入）

(1) 29 年度の実施状況等を踏まえ、以下について実施要領を改正（30 年 4 月 26 日）。

①助成単価の変更（一頭当たり 15 万円（税込）⇒13 万 8 千円（税抜）へ変更）

②酪農家ごとの頭数の制限（一戸当たり 10 頭以内 ⇒ 初妊牛 15 頭以内・育成牛 30 頭以内）

(2) 30 年度の本事業の事業実施主体は、昨年度に引き続き、全農、全酪連、熊本県酪連の 3 団体から事業実施計画の申請があり、その内容については次のとおり。なお、熊本県酪連が 29 年度に輸入した育成牛が初妊牛に仕上がり供給（83 頭）されることから当該助成も含め、助成額は最大で約 1 億 3,600 万円（税抜）の見込み。

各事業実施主体の実施計画内容

		全農	全酪連	熊本県酪連
輸入時期 (予定)	第1期	平成30年6月4日着 平成30年6月20日解放	平成31年2月20日着 平成31年3月11日解放	平成30年11月6日着 平成30年11月22日解放
	第2期	平成31年1月21日着 平成31年2月6日解放		
輸入牛種類		両期とも育成牛	初妊牛	初妊牛
輸入頭数 (計画)		第1期：150頭 第2期：350頭 計500頭	200頭	200頭
		全体で初妊牛400頭、育成牛500頭、総計900頭		
備考		第1期の輸入は既に実施され、全頭が供給済み。		輸入した195頭のうち1頭からヨーネ病定量陽性が摘発され、当該牛を自主淘汰。同一生産農業に由来する19頭を除く175頭を供給。

(3) 現時点までに全農及び熊本県酪連の第 1 期が実施されており、既に国内に供給された。

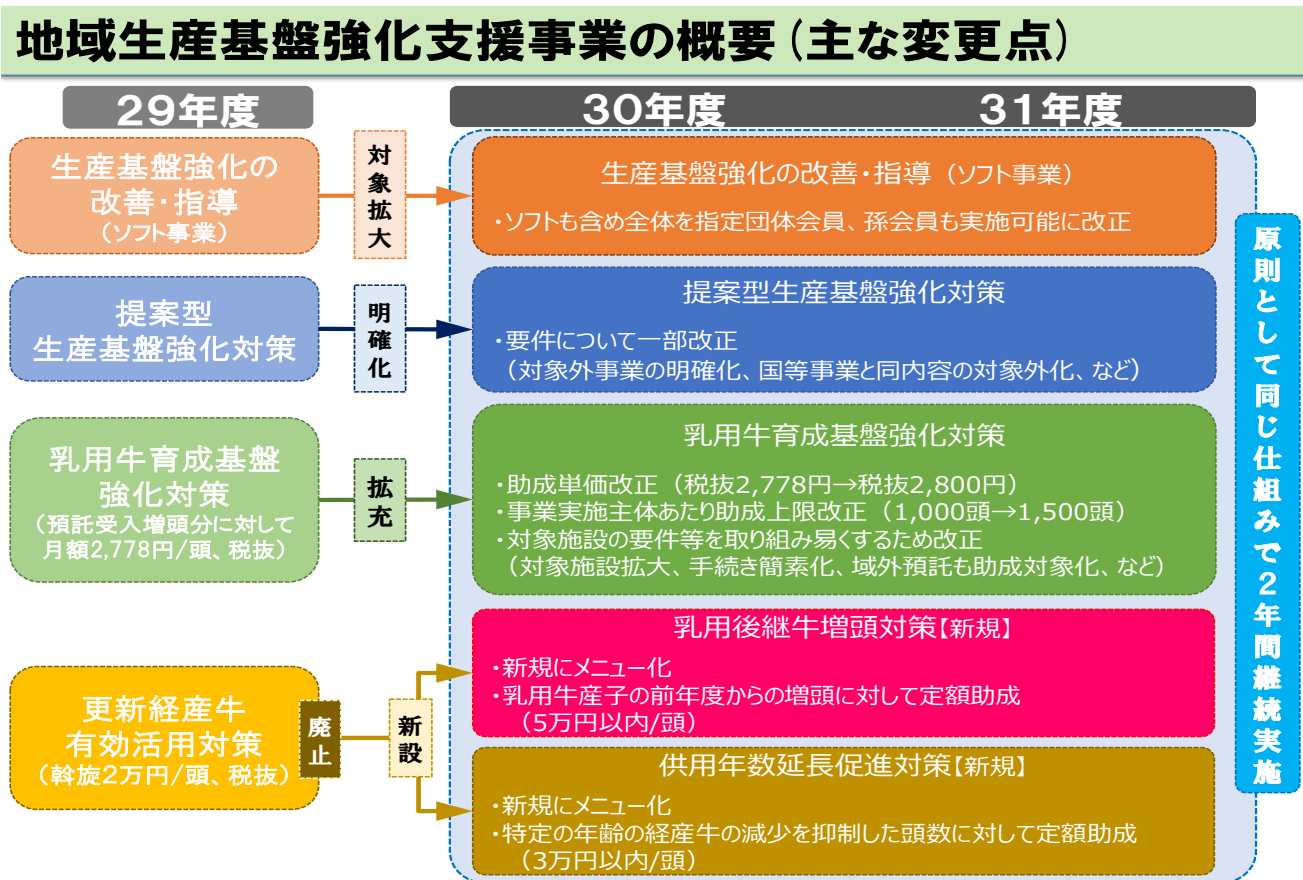
(4) 国内初妊牛相場が高止まりしている状況も踏まえ、引き続き適切に事業を推進することとする。

2. 生乳増産対策特認事業

- (1) 全酪連において、地域生産基盤強化支援事業における「乳用牛育成基盤強化対策」と同様の取り組みにより、全酪連所有の育成施設における育成頭数増加実績を基に単価助成を行い、当該助成については施設の拡充等に充当するとする事業を実施。
- (2) その他、必要に応じて具体的な内容を協議検討することとしている。

3. 地域生産基盤強化支援事業

- (1) 29年度の実施状況や課題、また全国遍く取り組める新規対策措置の要望等を踏まえ、事業検討会において 30 年度以降の事業内容について協議し実施要領を改正（30 年 3 月 28 日）。



- (2) 具体的には、乳用牛の3%の増頭を目指し、乳用種の種付けを推奨する「乳用後継牛増頭対策」として乳用種産子増頭の取り組み、また生乳増産に即効性の高い「供用年数延長促進対策」の取り組み、それぞれの結果に対して助成を行い、より効果的な推進を図ることとした。
- (3) 7 月末日までの計画申請に向け、各指定団体において説明会等が開催され、J ミルクも適宜出席し、円滑な推進に資するよう努めた。
- (4) 7 月末日までに指定団体、指定団体会員及びその会員からの計画申請を受け、内容等を集約。この中で、「提案型生産基盤強化対策」の申請が7件あったため、採択の可否を審査・決定する事業審査会を9月21日に開催し、最終的に4件を採択。

(5) 新規対策における取り組みの確認に向け、独立行政法人家畜改良センターの個体識別情報取得手続きを進めるとともに、31年度の実施に当たっての課題等を整理し、年内に方針を公表する予定。

- ◆参考資料として添付しているデータは、乳用牛群検定全国協議会が牛群検定データを活用した子牛の生産予測です。
- ◆平成30年の予測によると、出生総頭数は横ばいで推移するものの、全国の乳用雌子牛の出生頭数は前年予測比+2.9% (+7,800頭) 増加する見通しであり、本事業が目標とした3%の増加に近い水準となっている。

平成30年度 地域生産基盤強化支援事業 事業実施計画取り纏め表(最終)

(千円、戸)

地域	合計		1 生産基盤強化の改善・指導						2 生産基盤強化支援対策の推進							
			(1)会議開催		(2)研修会開催		(3)現地指導・その他		(1)提案型生産基盤強化対策		(2)乳用牛育成基盤強化対策				(3)乳用後継牛増頭対策	(4)供用年数延長促進対策
	団体数	助成額	団体数	助成額	団体数	助成額	団体数	助成額	団体数	助成額	団体数	施設数	申請頭数	助成額	参加戸数	参加戸数
北海道	59	58,332	0	0	0	0	0	0	0	0	19	55	34,470	58,332	3,402	3,338
東北	14	1,988	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	710	1,988	919	681
関東	51	2,952	0	0	0	0	0	0	1	550	3	8	858	2,402	2,530	2,538
北陸	38	630	1	200	3	430	0	0	0	0	0	0	0	0	280	280
東海	5	1,902	1	36	1	30	0	0	0	0	2	7	656	1,837	592	592
中国	8	9,866	1	499	0	0	0	0	1	1,667	2	2	2,750	7,700	615	615
四国	9	1,196	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	427	1,196	314	314
九州	8	24,235	1	364	2	1,217	1	60	2	15,020	3	5	2,705	7,574	1,362	1,362
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	193	101,102	4	1,099	6	1,677	1	60	4	17,237	31	80	42,576	81,029	10,016	9,722

乳用後継牛増頭対策・供用年数延長促進対策の参加状況

	参加戸数		酪農家戸数	参加率	
	乳用後継牛増頭対策	供用年数延長促進対策		乳用後継牛増頭対策	供用年数延長促進対策
全国	10,016	9,722	13,492	74.2%	72.1%
北海道	3,402	3,338	5,487	62.0%	60.8%
都府県	6,612	6,382	8,003	82.6%	79.7%
東北	919	681	2,100	43.8%	32.4%
関東	2,530	2,538	2,569	98.5%	98.8%
北陸	280	280	281	99.6%	99.6%
東海	592	592	725	81.7%	81.7%
中国	615	615	638	96.4%	96.4%
四国	314	314	319	98.4%	98.4%
九州	1,362	1,362	1,371	99.3%	99.3%
その他	2	2	2	100.0%	100.0%

※酪農家戸数は30年4月1日時点の酪農家戸数で計画申請書の記載ベース。

提案型生産基盤強化対策で採択された内容

事業実施主体	事業内容	期待される効果	事業費(税抜き)		
				助成金	自己負担等
関東 栃木県酪農業協同組合	<p>■事業概要</p> <p>ホルスタイン性別別受精卵等を活用した後継牛の増頭体制を整備する。整備は3か年計画で行い、2期目となる今年度は、採卵移植体制(採卵・保存・移植)の整備を図る。</p>	<p>■採卵目標個数150個のうち販売後は受胎率40%なので、60頭のホルスタイン後継牛の確保ができる。</p> <p>■経産牛から採卵した卵は、対象農家の長命に対応した遺伝的形質の牛を効率的に増やすことが出来る。</p> <p>■管内で採卵移植体制を整備することは、X受精卵市場における外部的な需要と供給の影響を受けにくくできるので、受精卵の安定供給により、後継牛の増頭ができる。</p> <p>■組合管内において、安定的かつ安価なホルスタインX受精卵を確保し酪農家へ供給することは、長期的な酪農生産基盤の強化に繋げることが出来る。</p> <p>■将来的には、採卵移植体制を確立することで、大笹牧場を中心とした酪農家の預託牛に受精卵を移植し、これにより出生した後継牛を再度大笹牧場へ預託することで、後継牛確保の良い循環が生まれ、他県からの導入に頼ることの無い基盤を構築することができる。</p>	4,825,050	550,000	4,275,050
中国 広島県酪農業協同組合	<p>(1)事業名：自家育成保留奨励事業</p> <p>(2)事業内容：生乳生産基盤の維持・向上を誘導する措置として、自家生産牛の初産分娩牛を対象に、平成29年度と平成30年度を比較し、前年度を上回った頭数に対して助成金を交付する。(出生報告カードを提出する。)</p>	雌判別精液の利用、並びに預託育成事業を併せて推進し、乳用雌子牛の確実な生産と保留育成を醸成し、生乳生産基盤の回復を図る。	3,333,000	1,666,500	1,666,500
九州 熊本県酪農業協同組合連合会	平成30年度ホルスタイン種雌子牛増産対策支援事業。 期末(平成31年1月31日)の育成牛(乳用雌牛24ヶ月齢未満)頭数が期末の成牛(乳用雌牛24ヶ月齢以上)頭数の半数以上飼養している生産者に対して自家育成奨励金として支払いを行う。 支払額は規模別(乳用雌牛24ヶ月齢以上頭数)によって異なる。	自家育成のホルスタイン種増頭に取り組む生産者を支援するため、ホルスタイン種の受精率及びホルスタイン種性別別精液の受精率が上がり、出生頭数が増加する事が期待できる。	22,840,000	11,420,000	11,420,000
大分県酪農業協同組合	平成30年度乳用種雌子牛増産対策事業 ・自家育成奨励金事業 期末の育成牛(乳用雌牛24ヶ月齢未満)頭数が期末の成牛頭数の50%以上使用している経営体に飼養規模に応じた奨励金を交付	自家育成牛頭数を向上することにより、計画的な経産牛の更新と増頭が図られ、搾乳日数短縮・経産牛乳量の向上で酪農経営の安定に資することが可能となる。 他方で、余剰分の育成牛が確保できれば地域内の販売も可能となり、初妊牛価格の安定と育成牛不足の解消が期待される。	7,200,000	3,600,000	3,600,000

II. 国産牛乳乳製品高付加価値化事業

- (1) 12月時点の事業申請は、全国農協乳業協会、岩手県牛乳協会、茨城県牛乳協同組合、静岡県牛乳協会、四国地区乳業協会の5団体。研修会の開催費用や外部研修会への旅費助成などが主な内容。
- (2) 茨城県牛乳協同組合においては、学校関係者向けに6月に開催した「牛乳の風味変化研修会」に対し助成実施。
- (3) 本事業の内容や活用方法が知られていないこともあることから、牛乳の風味変化対策やHACCP制度化への対応を推進なども含め、乳業団体を通して本事業の活用を図った。
- (4) 今後も乳業団体からの申請を随時受け付け、円滑な事業推進を行う。
- (5) 来年度以降のさらなる活用が進むよう、乳業団体に意見を聞きながら実施内容を検討する必要。

平成30年度の高付加価値化事業の申請状況

事業実施主体	事業内容	助成金 (計画・実績)	助成対象
全国農協乳業協会	高付加価値化に向けた商品開発研修会、価値訴求に関する販売実務者研修会、HACCP制度化等対策の製造担当者研修会、フードディフェンスに関する危機管理に関する経営者研修会の開催（合計4回）	1,079,200	会場借料、会議費、講師旅費、講師謝金、受講料、旅費、事務局人件費・交通費等
岩手県牛乳協会	HACCP制度化に向けた導入講習会の開催。	418,954	
茨城県牛乳協同組合	牛乳及び学乳の異味・異臭にかかる研修会を開催。酪農乳業・学校関係者を中心に75名が参加。	82,730	
静岡県牛乳協会	官能評価の基礎と異種風味体験実習	112,300	
四国地区乳業協会	牛乳衛生講習会(9/6 高松市)の開催及び、乳協官能評価員研修会等の参加費・旅費助成(4会員×4回)	1,080,000	
	合計	2,773,184	

III. 生乳需給安定事業

- (1) Jミルクでは、生乳需給が逼迫構造にある中、牛乳乳製品の安定供給を図る上で、その判断指標となる乳製品在庫の評価（適正在庫水準の考え方）などの検討の必要性について、政府及び乳業者からの要望が寄せられていた。
- (2) また、最近のJミルク理事会においても、生乳及び牛乳乳製品需給の中長期的な見通しを踏まえた検討が必要との意見が出されたことから、Jミルクにおいては課題整

理の作業を開始しているところ。

- (3) 以上の経緯を踏まえ、Jミルクでは、業界関係者と連携して、わが国における生乳の生産や流通に係る課題及び今後の取り組みの方向性について共通した考え方を整理することとした。
- (4) 以上の取り組みには、本事業で協議すべき「国内外の需給等に係る酪農乳業間の情報共有化、政府・生産者・乳業者が連携して需給管理をするための基本的ルールの検討」を内包していることから、本事業の検討については課題検討委員会での議論として実施することとしたい。

IV. 予算の考え方と計画申請時点の見込み

- (1) 29年度事業実績を踏まえ、残りの事業実施期間2か年で予算を均等に執行するよう見通した。特に、酪農生産基盤強化事業に予算の90%以上を充当し、生産基盤強化に向けた取り組みを一層加速することとした。
- (2) なお、地域生産基盤強化支援事業の予算執行の考え方としては、ソフト事業及び提案型地域生産基盤強化支援事業に年間3.8億円を当初計画するが、他事業で残余金が出たらこの事業に充当し拡充するとともに、予算額の範囲で、①育成基盤強化事業→②後継牛増頭事業→③供用年数延長促進事業（但し最低限の単価水準は確保）の順に予算配分することとする。

地域生産基盤強化支援事業の予算執行の考え方

事業	予算案 (税込、千円)	備考
酪農生産基盤強化事業	607,600	酪農乳業産業基盤強化特別対策事業6.4億円のうち9割超を生産基盤強化に向けた本事業に充てる
乳用牛資源緊急確保事業	159,000	輸入牛頭1,060頭（全農660頭、全酪連200頭、熊本県酪連200頭を想定）
生乳増産対策特認事業	64,800	
地域生産基盤強化支援事業	383,800	新対策メニュー実施、既存対策拡充
生産基盤強化の改善・指導（ソフト）		予算枠を設定しその範囲内（超過した場合は規程に基づき按分）
提案型生産基盤強化対策		”
乳用牛育成基盤強化対策		申請金額を予算とする（ 原則として適正な申請は全て認める ）
乳用後継牛増頭対策【新規】		上記3対策の残金を、新設の2対策に充てる。 予算総額を超過する実績があった場合は「乳用後継牛増頭対策」を優先する。
供用年数延長促進対策【新規】		

- 地域生産基盤強化支援事業に年間3.8億円を当初計画するが、他事業で残余金が出たらこの事業に充当し拡充。
- 予算額の範囲で、①育成基盤強化事業→②後継牛増頭事業→③供用年数延長促進事業（但し最低限の単価水準は確保）の順に予算配分。

- (3) 現時点の計画においては、ソフト事業284万円、提案型生産基盤強化対策1,724万円、乳用牛育成基盤強化対策8,103万円の申請があること、また乳用牛資源緊急確保事業の残預金が1,140万円あることから、新規2対策に充てられる予算額は約2億6,600万円の見込み。

本事業実施の3年間の収入・支出計画は下表のとおり。なお、平成31年度は、現時点での事務局の見通し。3年目の31年度には、基金全額が活用され、事業を終了する予定。

基盤強化特別対策事業の収入・支出見通し

(単位:千円)

	H29(実績)	H30(計画)	H31(見通し)	合計
基盤強化対策金	308,433	308,380	335,000	951,813
基盤強化特別対策金	183,984	183,990	185,000	552,974
収入合計	492,417	492,370	520,000	1,504,787

	H29(実績)	H30(計画)	H31(見通し)	合計
乳用牛資源確保(乳牛輸入)	81,549	147,343	147,340	376,232
全国連特任事業	0	60,000	60,000	120,000
地域生産基盤・指導事業	1,595	10,000	10,000	21,595
地域生産基盤・提案型事業	17,911	40,000	40,000	97,911
地域生産基盤・育成基盤強化	35,618	77,000	77,000	189,618
地域生産基盤・更新経産牛活用	4,667	—	—	4,667
地域生産基盤・後継牛増頭対策	—	183,250	198,632	381,882
地域生産基盤・供用年数延長対策	—	45,000	55,000	100,000
地域生産基盤—小計	59,791	355,250	380,632	795,673
国産牛乳乳製品高付加価値	2,552	20,000	20,000	42,552
需給安定事業	0	3,000	3,000	6,000
事業運営費	5,410	7,000	7,000	19,410
特別対策事業—支払消費税	34,010	36,472	52,000	122,482
直接人件費	7,434	7,504	7,500	22,438
支出合計	190,746	636,569	677,472	1,504,787

当期収支差額	301,671	-144,199	-157,472
前期繰越収支差額	0	301,671	157,472
次期繰越収支差額	301,671	157,472	0

※平成 29 年度決算書及び平成 30 年度予算書より (平成 31 年度は事務局見通し)

V. 基盤強化対策金の納入状況について

- (1) 平成 29 年度は、基盤強化対策金 116 社、基盤強化特別対策金 38 社の同意により、4.92 億円の基金を造成し、目標としていた 5 億円をほぼ達成。
- (2) 乳業者毎の拠出状況は、別添資料の通りで、J ミルクが各団体及び乳業者から報告のあった乳量等による拠出率を試算した結果、拠出率 100%が 94 社(81%)、75~99%が 8 社(7%)、50~74%が 5 社(4%)、50%未満及び拠出手続確認中等が 10 社(8%)となった。
- (3) なお、30 年度に入って、東北協同乳業株式会社が 6 月に新たに基盤強化対策金に支払いに同意し増加したが、7 月に入ると静岡県のミルクランド、日清煉乳、大林牛乳、函南東部農協、いなさ酪農協の 5 社が、県内乳業団体の会議を経て、事業効果やその他の乳業者の拠出状況、独自での支援策の実施などを理由に、対策金の同意を撤回する旨の通知があり年度途中から支払いが中止されている。
- (4) また、本事業の効果を高めるために必要な追加財源として、乳業者の自主申告による基盤強化特別対策金の支払い状況については、38 社のうち 33 社は完了。5 社については、一部納入または今後納入予定となっている。なお、木村ミルクプラント(福島県)については、特別対策金拠出辞退の連絡があった。未納の乳業者については、今後支払いの確認作業を進める。
- (5) J ミルクにおいては、乳業団体と連携し事業の実施状況を報告し、対策金の継続的な協力をお願いするとともに、同意していない乳業者に対しても協力をお願いする。

VI. 今後の進め方について（全体）

- (1) 事業実施計画に基づき事業を着実に進めることで、酪農生産基盤強化への足取りをより確実にするとともに、適切な運営管理に努める。
- (2) 31 年度の事業については、原則として 30 年度と同様の枠組みで実施することとしているが、各事業の事業実施主体の要望、政府による支援（補助事業等）の内容、酪農生産基盤をめぐる環境変化や新たな課題、本事業の運用上の課題を踏まえ、必要に応じて事業実施要領の改正等を行う。
- (3) 30 年度事業の実績報告及び精算払いは、31 年 5~6 月までに完了させる予定。

以上

H29年度 酪農乳業産業基盤強化基金 基盤強化対策金納入同意乳業者・支払い実績一覧

都道府県	No.	企業名	支払有無	備考	都道府県	No.	企業名	支払有無	備考
北海道	1	浦幌乳業株式会社	○		神奈川	60	守山乳業株式会社	○	
	2	くみあい乳業株式会社	○			61	柳川乳業株式会社	○	
	3	倉島乳業株式会社	○			62	横浜乳業株式会社	○	
	4	有限会社 小松牧場	—	生乳取引なし	新潟	63	株式会社 塚田牛乳	○	
	5	新札幌乳業株式会社	○			64	新潟県農協乳業株式会社	○	
	6	株式会社 豊富牛乳公社	○			65	原田乳業株式会社	○	
	7	株式会社のぼりべつ酪農館	—	拠出手続確認中		66	有限会社 ヤスダヨーグルト	○	
	8	株式会社 函館酪農公社	○		石川	67	丸七牛乳	○	
	9	株式会社 べつかい乳業興社	—		福井	68	加藤牧場	○	
	10	株式会社 牧家	○		長野	69	信州ミルクランド株式会社	○	
	11	北海道乳業株式会社	○			70	八ヶ岳乳業株式会社	○	
	12	北海道日高乳業株式会社	○		岐阜	71	岐阜グリコ乳業株式会社	○	
	13	北海道保証牛乳株式会社	○			72	関牛乳株式会社	○	
	14	株式会社 北海道酪農公社	○		静岡	73	いなさ酪農業協同組合	○	
	15	株式会社 町村農場	○			74	大林牛乳	○	
	16	よつ葉乳業株式会社	○			75	函南東部農業協同組合	○	
青森	17	一般財団法人新郷村ふるさと活性化公社	○			76	静岡牛乳協同組合	○	
岩手	18	株式会社 岩手牛乳	○			77	東海明治株式会社	○	
	19	岩手ふるさと農業協同組合	○			78	株式会社 日清煉乳	○	
	20	岩泉乳業株式会社	○		79	フクロイ乳業株式会社	○		
	21	大石乳業株式会社	○		80	ミルクランド株式会社	○		
	22	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	—	拠出手続確認中	愛知	81	中央製乳株式会社	○	
	23	一般社団法人田野畑村産業開発公社	—	拠出手続確認中	大阪	82	株式会社 いかるが牛乳	○	
	24	不二家乳業株式会社	○			83	江崎グリコ株式会社	○	
25	株式会社 湯田牛乳公社	○		84		北庄司牛乳処理場	○		
26	東北グリコ乳業株式会社	○		85		泉南乳業株式会社	○		
27	東北森永乳業株式会社	○		86		日本酪農協同株式会社	○		
宮城	28	古川乳業株式会社	—	拠出手続確認中	87	ビタミン乳業株式会社	○		
	29	みちのくミルク株式会社	○		兵庫	88	株式会社 共進牧場	○	
山形	30	株式会社飯豊ながめやま牧場	○		89	有限会社 昭和乳業	○		
	31	富士乳業株式会社	—	拠出手続確認中	鳥取	90	大山乳業農業協同組合	○	
福島	32	木村ミルクプラント株式会社	○		島根	91	木次乳業有限会社	○	
	33	有限会社 ささき牛乳	—	生乳取引なし		92	島根中酪株式会社	○	
	34	東北協同乳業株式会社(6/24付)	—	2018年6月締結	岡山	93	オハヨー乳業株式会社	○	
	35	酪王乳業株式会社	○			94	蒜山酪農農業協同組合	○	
茨城	36	いばらく乳業株式会社	○		広島	95	山陽乳業株式会社	○	
	37	筑波乳業株式会社	○			96	東洋乳業株式会社	○	
	38	トモエ乳業株式会社	○			97	広島グリコ乳業株式会社	○	
栃木	39	関東乳業株式会社	○		山口	98	やまぐち県酪乳業株式会社	○	
	40	栃木明治牛乳株式会社	○		香川	99	四国明治株式会社	○	
	41	那須グリコ乳業株式会社	○		愛媛	100	四国乳業株式会社	○	
	42	日光霧降高原大笹牧場株式会社	○		高知	101	ひまわり乳業株式会社	○	
群馬	43	針谷乳業株式会社	○		福岡	102	オーム乳業株式会社	○	
	44	群馬牛乳協業組合	○			103	永利牛乳株式会社	○	
45	上毛食品工業株式会社	○		104		ニシラク乳業株式会社	○		
千葉	46	弘養舎 小見川牛乳処理工場	○		佐賀	105	佐賀グリコ乳業株式会社	○	
東京	47	カルピス株式会社	○		長崎	106	有限会社 ミラクル乳業	○	
	48	協同乳業株式会社	○		熊本	107	熊本県酪農業協同組合連合会	○	
	49	小岩井乳業株式会社	○			108	熊本乳業株式会社	○	
	50	全国酪農業協同組合連合会	○			109	球磨酪農農業協同組合	○	
	51	ダノンジャパン株式会社	○			110	株式会社 弘乳舎	○	
	52	東京グリコ乳業株式会社	○			111	合資会社堀田功乳舎	○	
	53	株式会社 明治	○		大分	112	九州乳業株式会社	○	
	54	森永乳業株式会社	○			113	有限会社古山乳業	○	
55	雪印メグミルク株式会社	○		宮崎	114	有限会社 丸山乳業社	○		
神奈川	56	あしがら乳業株式会社	○		115	南日本酪農協同株式会社	○		
	57	株式会社 協同牛乳	○		鹿児島	116	鹿児島県酪農乳業株式会社	○	
	58	近藤乳業株式会社	○		沖縄	117	沖縄明治乳業株式会社	○	
	59	タカナン乳業株式会社	○		都道府県は本社・本所所在地(五十音順)				

拠出率別乳業者数

100%	94	25~49%	0
75~99%	8	0~24% 他	10
50~74%	5	合計	117

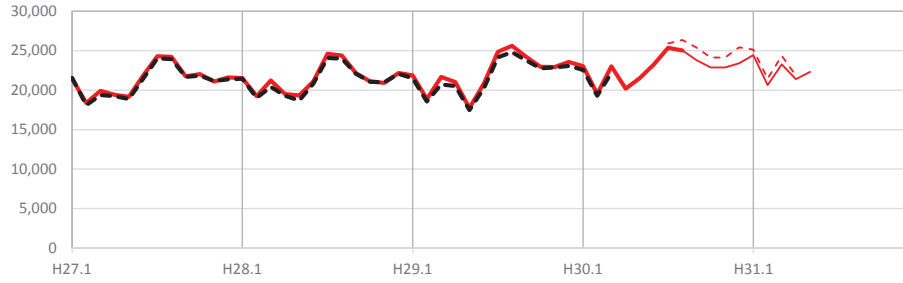
※拠出率は中央酪農会議、日本乳業協会、全国農協乳業協会からの報告を取りまとめ、乳業者からの報告乳量・金額により算出しております。

子牛の生産予測情報<全国>

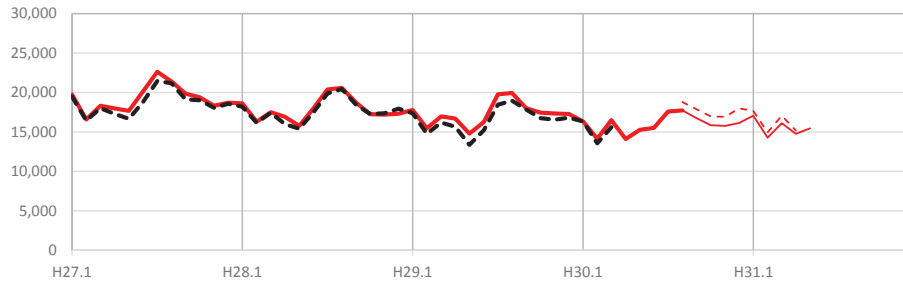
平成30年11月1日予測

— 最終予測 — 30.9~31.5月予測
 (平均5%程度の誤差を含む)
 - - - 実績 - - - 先月予測

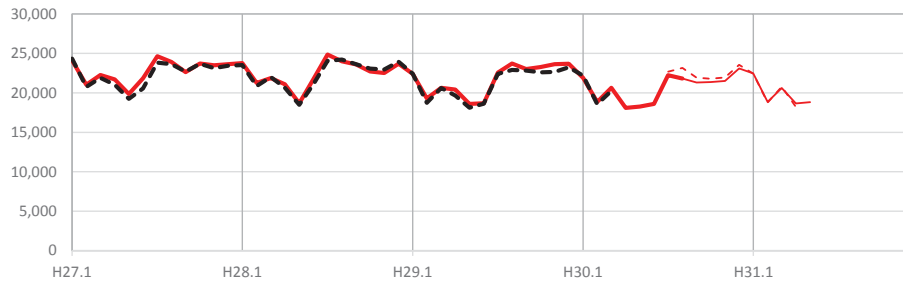
(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数



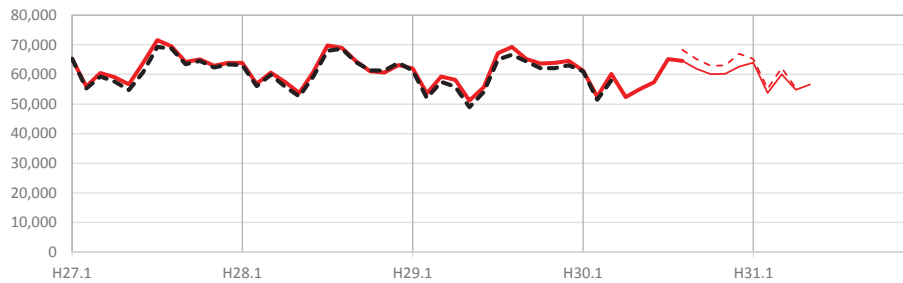
(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数



(3) 交雑種生産予測頭数



(4) 合計



※ - - - (独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数

子牛の生産予測情報<全国>

平成30年11月1日予測

(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	21,500	18,400	19,900	19,400	19,200	21,800	24,300	24,200	21,700	22,000	21,100	21,600	255,100	21,258
	21,565	18,079	19,377	19,236	18,865	21,411	24,011	23,951	21,662	21,849	21,166	21,371	252,543	21,045
平成28年	21,500	19,300	21,200	19,500	19,300	21,100	24,600	24,400	22,100	21,100	20,900	22,200	257,200	21,433
	21,445	19,026	20,414	19,303	18,692	20,821	24,087	24,010	22,073	21,048	20,989	22,054	253,962	21,164
平成29年	21,900	18,900	21,700	21,000	17,700	20,800	24,900	25,600	24,200	22,900	22,900	23,600	266,100	22,175
	21,519	18,579	20,728	20,519	17,473	20,207	24,163	24,820	23,780	22,770	22,885	23,071	260,514	21,710
平成30年	23,000	19,500	23,000	20,200	21,500	23,300	25,400	25,000	23,800	22,900	22,900	23,400	273,900	22,825
	22,578	19,292	22,195											
平成31年	24,400	20,600	23,300	21,400	22,300								112,000	22,400

(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	19,700	16,600	18,300	18,000	17,700	20,100	22,600	21,400	19,900	19,400	18,300	18,700	230,700	19,225
	19,467	16,432	18,009	17,291	16,666	18,779	21,461	21,184	19,128	19,004	18,058	18,568	224,047	18,671
平成28年	18,600	16,300	17,500	16,900	15,800	18,000	20,400	20,600	18,700	17,300	17,200	17,300	214,600	17,883
	18,208	16,167	17,427	15,990	15,401	17,482	19,877	20,441	18,456	17,276	17,364	17,950	212,039	17,670
平成29年	17,800	15,500	17,000	16,700	14,800	16,200	19,800	19,900	18,000	17,500	17,300	17,300	207,800	17,317
	17,353	14,751	16,190	15,648	13,370	15,220	18,449	18,966	17,840	16,754	16,556	16,806	197,903	16,492
平成30年	16,300	14,200	16,500	14,100	15,300	15,500	17,600	17,700	16,800	15,900	15,800	16,100	191,800	15,983
	16,324	13,569	15,589											
平成31年	17,100	14,300	16,100	14,800	15,500								77,800	15,560

(3) 交雑種生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	24,100	21,000	22,300	21,700	19,900	21,900	24,600	23,900	22,600	23,700	23,500	23,600	272,800	22,733
	24,338	20,759	21,886	21,029	19,232	20,547	23,831	23,636	22,689	23,698	23,134	23,448	268,227	22,352
平成28年	23,800	21,300	21,900	21,100	18,700	21,700	24,900	24,000	23,600	22,700	22,500	23,700	269,900	22,492
	23,530	20,873	22,019	20,651	18,486	21,088	24,065	24,215	23,628	23,083	22,960	23,929	268,527	22,377
平成29年	22,400	19,300	20,700	20,400	18,600	18,700	22,600	23,700	23,000	23,300	23,600	23,700	260,000	21,667
	22,439	18,734	20,617	19,663	18,116	18,635	22,412	22,904	22,833	22,590	22,650	23,235	254,828	21,236
平成30年	21,900	18,800	20,600	18,100	18,300	18,600	22,200	21,800	21,300	21,400	21,500	23,100	247,600	20,633
	22,183	18,576	20,248											
平成31年	22,500	18,800	20,600	18,700	18,800								99,400	19,880

(4) 合計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	65,300	56,000	60,500	59,100	56,700	63,800	71,600	69,500	64,200	65,100	62,900	63,900	758,600	63,217
	65,370	55,270	59,272	57,556	54,763	60,737	69,303	68,771	63,479	64,551	62,358	63,387	744,817	62,068
平成28年	63,900	56,800	60,600	57,500	53,800	60,800	69,800	69,000	64,500	61,100	60,600	63,200	741,600	61,800
	63,183	56,066	59,860	55,944	52,579	59,391	68,029	68,666	64,157	61,407	61,313	63,933	734,528	61,211
平成29年	62,000	53,600	59,300	58,100	51,100	55,700	67,200	69,300	65,200	63,700	63,900	64,600	733,700	61,142
	61,311	52,064	57,535	55,830	48,959	54,062	65,024	66,690	64,453	62,114	62,091	63,112	713,245	59,437
平成30年	61,300	52,500	60,200	52,400	55,100	57,400	65,200	64,600	61,900	60,100	60,200	62,600	713,500	59,458
	61,085	51,437	58,032											
平成31年	64,000	53,800	60,000	54,800	56,600								289,200	57,840

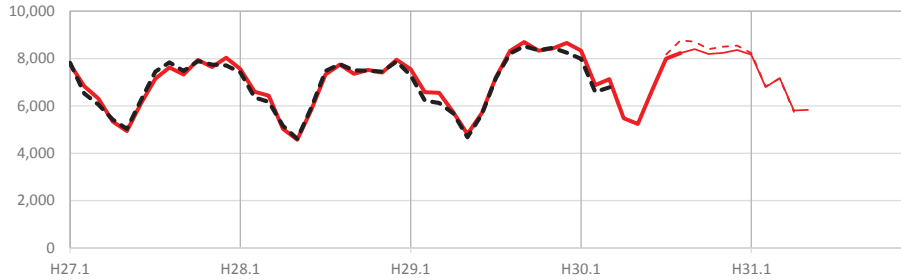
※赤太字…最終予測 赤細字…最新の予測 赤斜体…年間合計に達していない値
 黒太字…(独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数

子牛の生産予測情報<都府県>

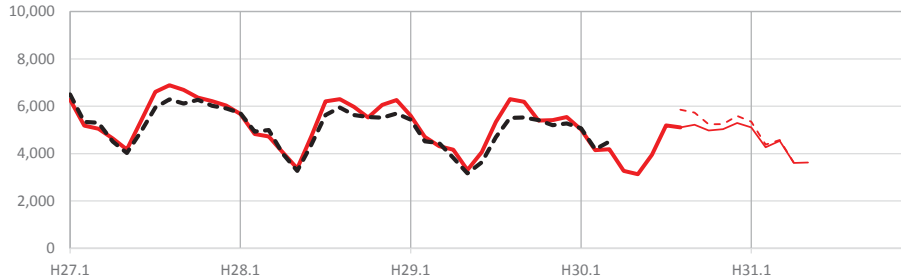
平成30年11月1日予測

— 最終予測 — 30.9~31.5月予測
 (平均5%程度の誤差を含む)
 - - - 実績 - - - 先月予測

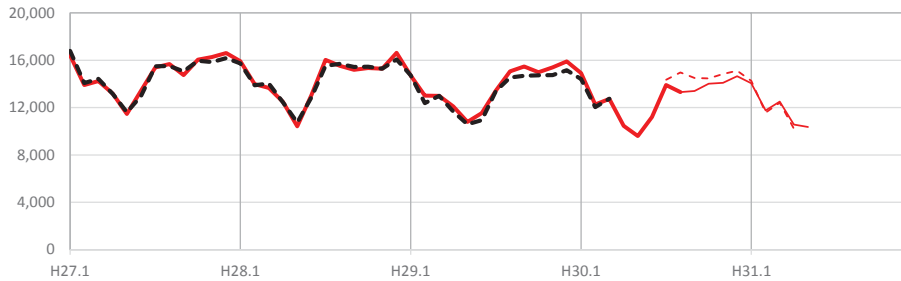
(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数



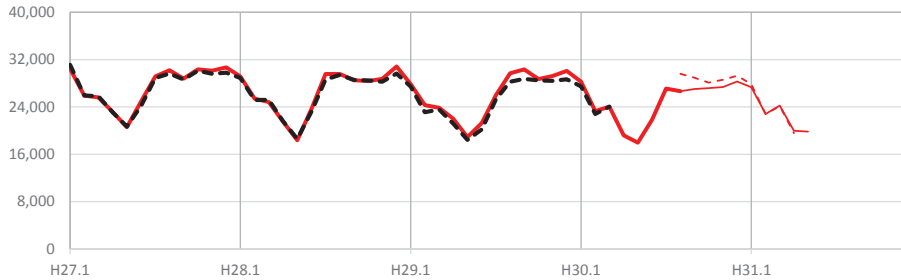
(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数



(3) 交雑種生産予測頭数



(4) 合計



※ - - - (独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数

子牛の生産予測情報<都府県>

平成30年11月1日予測

(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	7,800	6,800	6,300	5,300	4,900	6,100	7,200	7,600	7,300	7,900	7,600	8,000	82,800	6,900
	7,822	6,528	6,059	5,423	5,036	6,248	7,448	7,837	7,472	7,892	7,750	7,713	83,228	6,936
平成28年	7,600	6,600	6,400	5,000	4,600	5,800	7,300	7,800	7,400	7,500	7,400	8,000	81,400	6,783
	7,425	6,357	6,175	5,165	4,610	5,936	7,478	7,765	7,509	7,483	7,448	7,875	81,226	6,769
平成29年	7,500	6,600	6,600	5,700	4,800	5,700	7,200	8,300	8,700	8,300	8,400	8,700	86,500	7,208
	7,292	6,227	6,124	5,689	4,676	5,640	7,175	8,217	8,523	8,355	8,453	8,252	84,623	7,052
平成30年	8,300	6,900	7,100	5,500	5,200	6,600	8,000	8,200	8,400	8,200	8,200	8,400	89,000	7,417
	7,988	6,591	6,790											
平成31年	8,200	6,800	7,200	5,800	5,800								33,800	6,760

(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	6,300	5,200	5,100	4,600	4,200	5,400	6,600	6,900	6,700	6,400	6,200	6,000	69,600	5,800
	6,501	5,338	5,305	4,508	4,022	4,934	5,945	6,296	6,118	6,274	6,021	5,911	67,173	5,598
平成28年	5,700	4,800	4,700	4,000	3,400	4,700	6,200	6,300	6,000	5,500	6,100	6,300	63,700	5,308
	5,715	4,926	4,993	3,987	3,269	4,384	5,632	5,944	5,627	5,547	5,521	5,696	61,241	5,103
平成29年	5,600	4,700	4,300	4,200	3,300	4,100	5,300	6,300	6,200	5,400	5,400	5,500	60,300	5,025
	5,436	4,518	4,442	3,818	3,166	3,633	4,701	5,512	5,529	5,411	5,205	5,276	56,647	4,721
平成30年	5,000	4,100	4,200	3,300	3,100	4,000	5,200	5,100	5,200	5,000	5,000	5,300	54,500	4,542
	5,070	4,188	4,508											
平成31年	5,100	4,300	4,500	3,600	3,600								21,100	4,220

(3) 交雑種生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	16,400	13,900	14,200	13,200	11,500	13,400	15,400	15,700	14,800	16,100	16,300	16,600	177,500	14,792
	16,795	14,079	14,432	13,154	11,616	12,980	15,489	15,522	15,059	15,967	15,855	16,186	177,134	14,761
平成28年	15,900	14,000	13,700	12,500	10,400	13,000	16,000	15,500	15,200	15,300	15,300	16,600	173,400	14,450
	15,743	13,884	14,041	12,460	10,736	12,858	15,527	15,697	15,445	15,460	15,294	16,079	173,224	14,435
平成29年	14,700	13,000	13,000	12,100	10,800	11,500	13,400	15,100	15,500	15,000	15,400	15,900	165,400	13,783
	14,734	12,377	12,992	11,662	10,592	10,934	13,409	14,540	14,692	14,723	14,739	15,163	160,557	13,380
平成30年	14,900	12,300	12,700	10,500	9,600	11,200	13,900	13,300	13,400	14,000	14,100	14,700	154,600	12,883
	14,409	12,042	12,748											
平成31年	14,100	11,800	12,500	10,600	10,400								59,400	11,880

(4) 合計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	30,400	25,900	25,600	23,200	20,600	24,900	29,200	30,200	28,800	30,400	30,100	30,700	330,000	27,500
	31,118	25,945	25,796	23,085	20,674	24,162	28,882	29,655	28,649	30,133	29,626	29,810	327,535	27,295
平成28年	29,200	25,400	24,800	21,600	18,400	23,600	29,600	29,600	28,500	28,400	28,800	30,800	318,700	26,558
	28,883	25,167	25,209	21,612	18,615	23,178	28,637	29,406	28,581	28,490	28,263	29,650	315,691	26,308
平成29年	27,900	24,300	23,900	22,000	18,900	21,300	26,000	29,700	30,400	28,700	29,200	30,100	312,400	26,033
	27,462	23,122	23,558	21,169	18,434	20,207	25,285	28,269	28,744	28,489	28,397	28,691	301,827	25,152
平成30年	28,300	23,300	24,000	19,200	18,000	21,800	27,100	26,700	27,000	27,200	27,400	28,300	298,300	24,858
	27,467	22,821	24,046											
平成31年	27,300	22,800	24,200	20,000	19,800								114,100	22,820

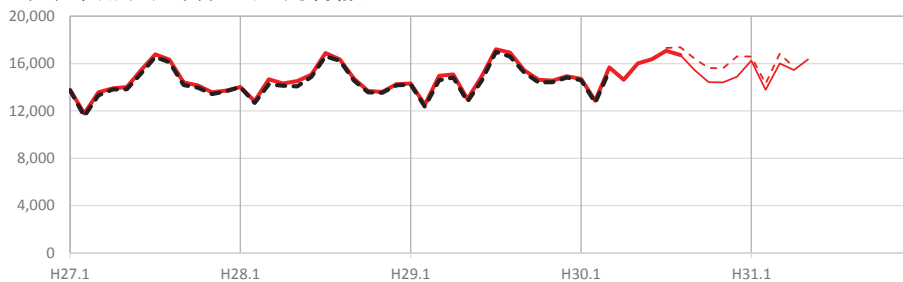
※赤太字…最終予測 赤細字…最新の予測 赤斜体…年間合計に達していない値
 黒太字…(独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数

子牛の生産予測情報<北海道>

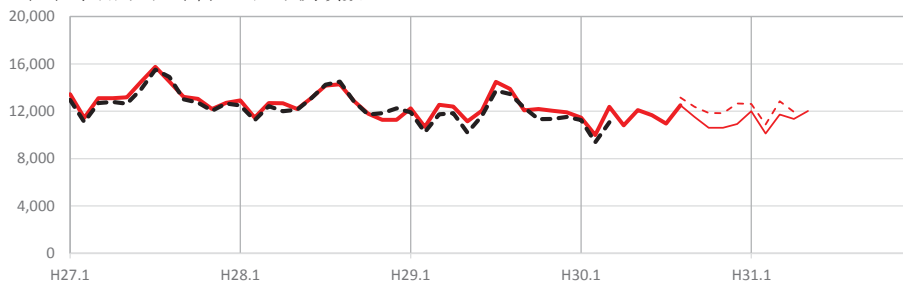
平成30年11月1日予測

— 最終予測 — 30.9~31.5月予測
 (平均5%程度の誤差を含む)
 - - - 実績 - - - 先月予測

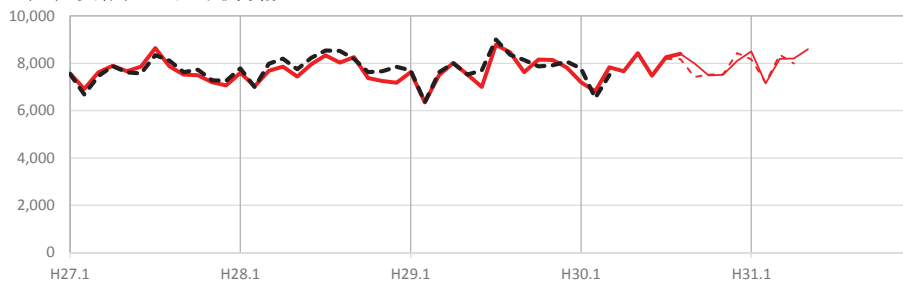
(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数



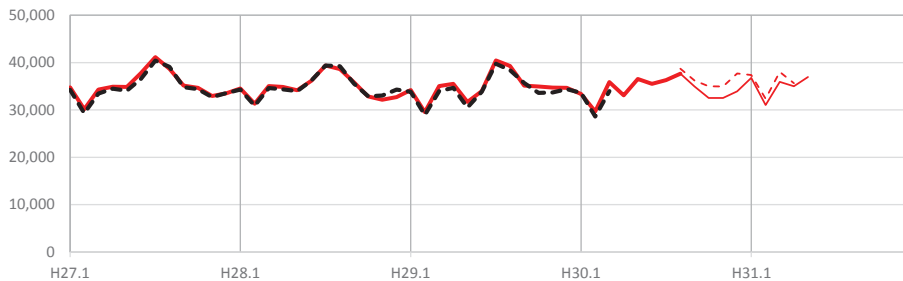
(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数



(3) 交雑種生産予測頭数



(4) 合計



※ - - - (独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数

子牛の生産予測情報<北海道>

平成30年11月1日予測

(1) 乳用子牛(雌)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	13,800	11,800	13,600	13,900	14,000	15,400	16,800	16,300	14,400	14,100	13,600	13,700	171,400	14,283
	13,743	11,551	13,318	13,813	13,829	15,163	16,563	16,114	14,190	13,957	13,416	13,658	169,315	14,110
平成28年	14,000	12,800	14,700	14,300	14,500	15,100	16,900	16,400	14,700	13,700	13,600	14,300	175,000	14,583
	14,020	12,669	14,239	14,138	14,082	14,885	16,609	16,245	14,564	13,565	13,541	14,179	172,736	14,395
平成29年	14,300	12,500	15,000	15,100	13,000	14,900	17,200	16,900	15,400	14,600	14,600	14,900	178,400	14,867
	14,227	12,352	14,604	14,830	12,797	14,567	16,988	16,603	15,257	14,415	14,432	14,819	175,891	14,658
平成30年	14,700	12,900	15,700	14,600	16,000	16,400	17,100	16,700	15,500	14,400	14,400	14,900	183,300	15,275
	14,590	12,701	15,405											
平成31年	16,300	13,800	16,000	15,500	16,400								78,000	15,600

(2) 乳用子牛(雄)生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	13,400	11,400	13,100	13,100	13,200	14,500	15,800	14,500	13,200	13,100	12,200	12,700	160,200	13,350
	12,966	11,094	12,704	12,783	12,644	13,845	15,516	14,888	13,010	12,730	12,037	12,657	156,874	13,073
平成28年	12,900	11,500	12,700	12,700	12,200	13,100	14,200	14,300	12,900	11,800	11,300	11,300	150,900	12,575
	12,493	11,241	12,434	12,003	12,132	13,098	14,245	14,497	12,829	11,729	11,843	12,254	150,798	12,567
平成29年	12,300	10,700	12,600	12,400	11,200	12,000	14,500	13,900	12,100	12,200	12,000	11,900	147,800	12,317
	11,917	10,233	11,748	11,830	10,204	11,587	13,748	13,454	12,311	11,343	11,351	11,530	141,256	11,771
平成30年	11,500	10,000	12,400	10,800	12,100	11,700	11,000	12,500	11,500	10,600	10,600	10,900	135,600	11,300
	11,254	9,381	11,081											
平成31年	12,000	10,100	11,700	11,400	12,000								57,200	11,440

(3) 交雑種生産予測頭数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	7,600	6,900	7,600	7,900	7,700	7,900	8,600	7,900	7,500	7,500	7,200	7,100	91,400	7,617
	7,543	6,680	7,454	7,875	7,616	7,567	8,342	8,114	7,630	7,731	7,279	7,262	91,093	7,591
平成28年	7,600	7,000	7,700	7,900	7,400	8,000	8,300	8,000	8,300	7,400	7,200	7,200	92,000	7,667
	7,787	6,989	7,978	8,191	7,750	8,230	8,538	8,518	8,183	7,623	7,666	7,850	95,303	7,942
平成29年	7,600	6,300	7,500	8,000	7,500	7,000	8,800	8,500	7,600	8,200	8,100	7,800	92,900	7,742
	7,705	6,357	7,625	8,001	7,524	7,701	9,003	8,364	8,141	7,867	7,911	8,072	94,271	7,856
平成30年	7,200	6,800	7,800	7,700	8,400	7,500	8,300	8,400	8,000	7,500	7,500	8,100	93,200	7,767
	7,774	6,534	7,500											
平成31年	8,500	7,100	8,200	8,200	8,600								40,600	8,120

(4) 合計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	34,800	30,100	34,300	34,900	34,900	37,800	41,200	38,700	35,100	34,700	33,000	33,500	423,000	35,250
	34,252	29,325	33,476	34,471	34,089	36,575	40,421	39,116	34,830	34,418	32,732	33,577	417,282	34,774
平成28年	34,500	31,300	35,100	34,900	34,100	36,200	39,400	38,700	35,800	32,900	32,100	32,700	417,700	34,808
	34,300	30,899	34,651	34,332	33,964	36,213	39,392	39,260	35,576	32,917	33,050	34,283	418,837	34,903
平成29年	34,200	29,600	35,000	35,500	31,700	34,000	40,500	39,300	35,100	35,000	34,700	34,700	419,300	34,942
	33,849	28,942	33,977	34,661	30,525	33,855	39,739	38,421	35,709	33,625	33,694	34,421	411,418	34,285
平成30年	33,400	29,700	35,900	33,100	36,500	35,500	36,300	37,600	35,000	32,500	32,500	33,900	411,900	34,325
	33,618	28,616	33,986											
平成31年	36,800	31,000	35,900	35,000	37,000								175,700	35,140

※赤太字…最終予測 赤細字…最新の予測 赤斜体…年間合計に達していない値
 黒太字…(独)家畜改良センターの「牛の個体識別情報検索サービス」による出生頭数